つ　な　が　り

校長　桑野 啓子

新緑の美しい、風薫る５月になりました。子どももおとなもドキドキした気持ちやわくわくした気持ちで新年度４月を迎えました。そんな４月もあっという間に過ぎていきました。互いに顔をあわせて、言葉を交わし合っていくうちに、不安な気持ちも日に日に和らいでいくようです。しかしまだ緊張がとけない人もいると思います。ゆっくり、じっくりと互いになじみあっていきたいです。４月には、５年から９年による第１回学園委員会がありました。一貫校として、今年度も異学年交流の機会を大切にしていきます。また子どもたちのみならずおとなにとっても異学年交流時には、１～９年に関わるすべての教職員が役割分担ごとに仲良く打ち合わせをしたり、相談しあったりする良い機会にもなっています。

彩都の丘学園は、「学ぶ、鍛える、つながる」を目標にしています。新クラスや新学年の「横のつながり」を意識して、クラスで自己紹介をしあったり、ゲーム等で気持ちをほぐしあったりしたようです。また学年みんなで集まって、学年のめあてを確認したようです。そして４月３０日には５年から９年の「たてのつながり」をめあてに、『つながり校区オリエンテーリング』を実施しました。（ブログにてご紹介しています。）守る会さんにも事前にお知らせをさせていただきました。後日１年から４年の「たてのつながり」をめあてに小グラウンドで『なかよし行事』を実施します。今年度も一貫校ならでは！の様々な異学年交流を活用して、互いのつながりを深めていきます。子どもたちの活動にＰＴＡさんからジュースの差し入れを頂戴しております。今年もありがとうございました。

放送による４月始業式では「自分の思いと同様にまわり人の思いも想像しながら、一人ひとりが安心して学園生活を過ごせるようにしよう」とお話をしました。先日、新聞で「言葉を待つことが大事」というコラムを読みました。コロナ禍に大学生活をおくった学生の体験談を聞き取った「コロナ禍の声を聞く」という書籍より。コロナ禍当時は大学生で今春社会人になった方が、「いろいろな制限のある生活の中で、自分の思いを抑えて、聞くことに徹するのは難しかった」と言われています。しかし徐々に「感じたことを全部言うのではなく、文字にして寝かせたりして、自分の言葉も待てるようになった。」と振り返っておられました。テンポの良い会話や短いメッセージのやり取りがあふれる今、「言葉を待つ」のはそう簡単ではないかもしれません。それだけに、気持ちを丁寧な言葉で伝えあうことや、伝え合わなくても相手の気持ちを想像することに丁寧でありたいと改めて思います。

子どもたちの活動に、保護者のみなさん地域のみなさんのお力添えを賜ります。引き続きどうぞよろしくお願いします。